2017年3月17日
飼料用米普及のためのシンポジウム2017

穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業

飼料メーカーから見た
飼料用米普及のための課題

昭和産業株式会社
飼料畜産部業務課
多田井　友揮

目次

1. 昭和産業のご紹介

2. 飼料用米取組の目的

3. 飼料用米の数量拡大に向けた課題

1

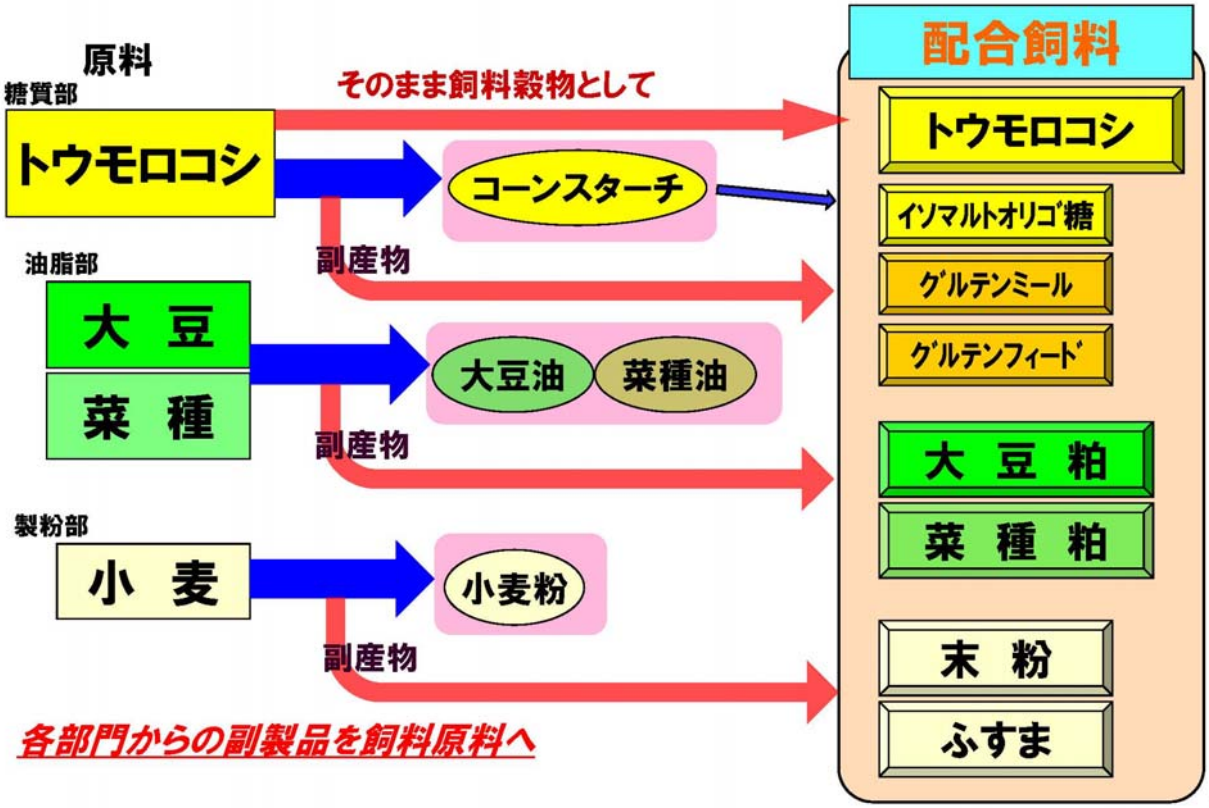
“穀物ソリューションカンパニー”
昭和産業株式会社

穀物ソリューション・カンパニー SHOWA 昭和産業

2

食品製造の副産物を配合飼料に

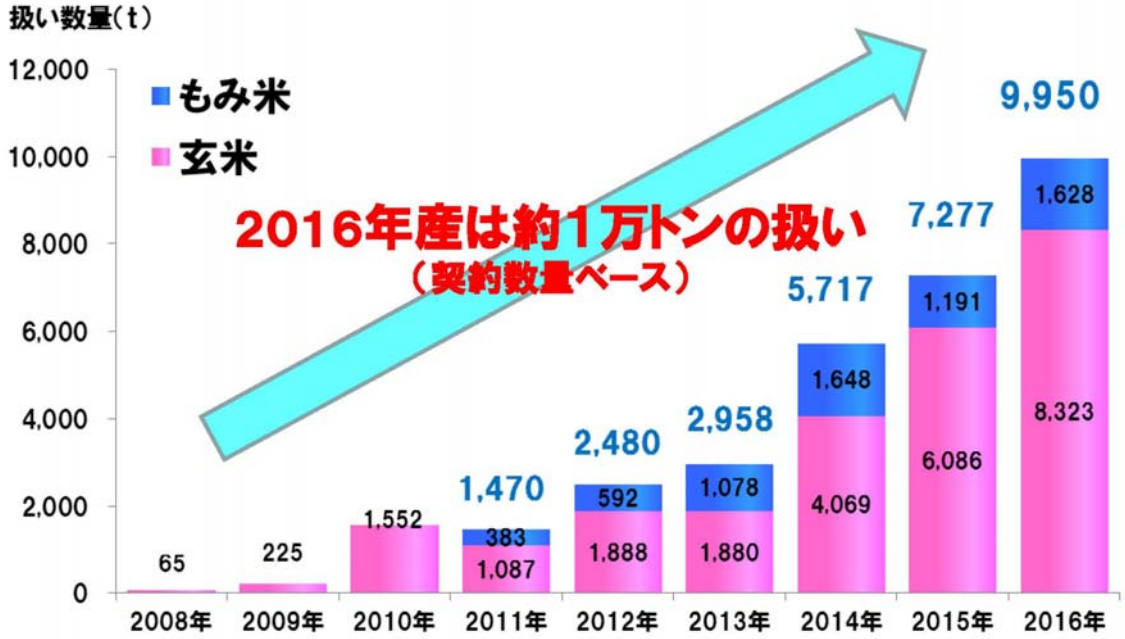
穀物ソリューション・カンパニー SHOWA 昭和産業



各部門からの副製品を飼料原料へ

3

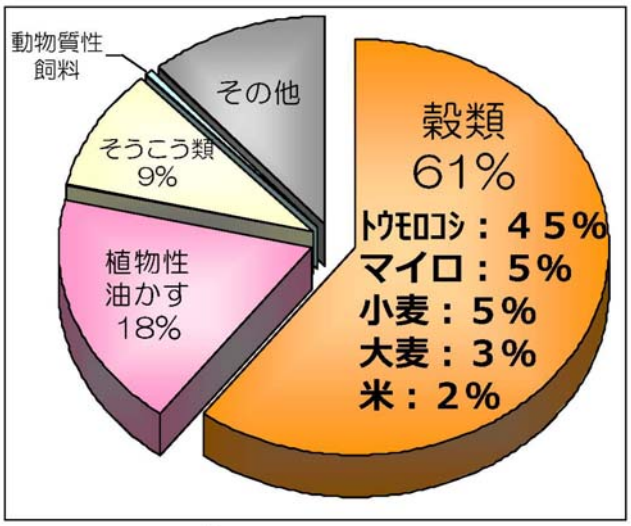
年々拡大する弊社の飼料用米取組量



4

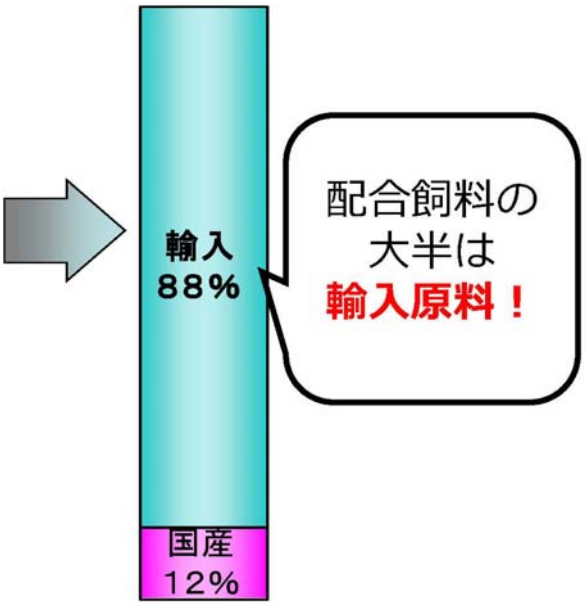
輸入トウモロコシから作られる配合飼料

全国の配合飼料の流通量
（年間２,４００万t）



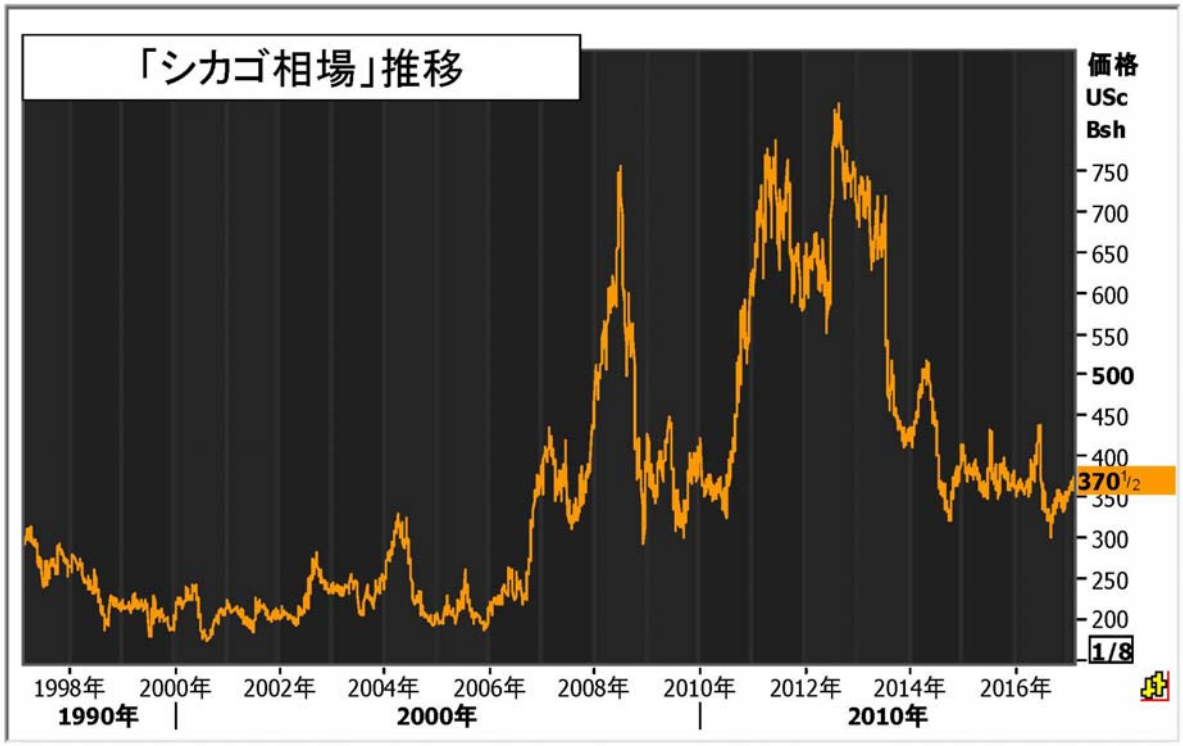
5

☆飼料自給率について



5

飼料価格は
輸入トウモロコシ相場に左右される



6

飼料用米を使用する目的

食料・農業・農村基本法（農林水産省HP参照）

●食料の安定供給の確保

●多面的機能の十分な発揮

・国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等

●農業の持続的な発展

・農地、水、担い手等の生産要素の確保と望ましい農業構造の確立

・自然循環機能の維持増進

～現状ある水田を有効活用することが重要～

7

飼料用米取組みの目的

【トピックス】

米国の北西部で前例のない大寒波が発生し、線路が雪に埋まり
トウモロコシを運び出せないなど、穀物輸送の大混乱が発生。
日本のトウモロコシ需給も綱渡り状態に陥った。

貨物列車の線路が雪に埋没

荷物が来ないので港では船が停滞

輸入トウモロコシへの依存を下げ、
飼料自給率を高める（飼料用米を使用する）ことが必要

8

飼料メーカーから見た 飼料用米普及のための課題

全国生産目標の１１０万トンに向けて

1. 数量拡大に向けたインフラ整備

2. 使用までにかかるコスト低減

3. 飼料用米を使用している畜産物の
   さらなる普及・拡大

9

1.数量拡大に向けたインフラ整備

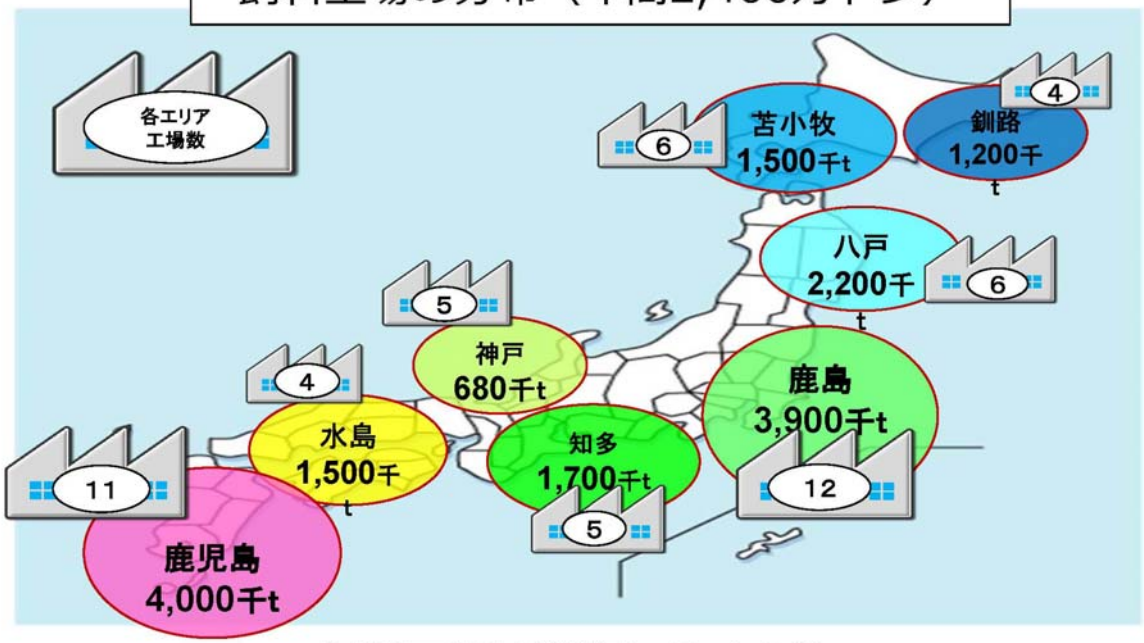
【現状の課題】

- 飼料工場から近い保管倉庫の不足
- 集荷時期の集中による入庫の停滞
- 紙袋流通の限界
- 飼料工場へバラ持込ができる
  ダンプ車の不足
- 農産物検査を行なう場所・検査員の不足

10

1.数量拡大に伴うインフラ整備

飼料工場の分布（年間2,400万トン）



飼料工場は港湾に多く立地。
しかし、**飼料用米を受入れる港湾倉庫は不足**。

11

1.数量拡大に向けたインフラ整備

主要原料はサイロ・もしくはバラ持込で受入れ。

12

1.数量増加に向けたインフラ整備

飼料工場で多量の飼料用米を受け入れるには・・・

①紙袋から**フレコンへの詰替**が必須。

②**収穫から一定期間は産地で保管し**、飼料工場へは**バラ持込み**、なおかつ**時期を分散化**させることが理想。

⇒そのために飼料用米の**カントリーエレベーター**の検討も必要。

13

1.数量増加に向けたインフラ整備

飼料用米協議会

生産者
③運送会社への搬入

運送会社
④倉庫への搬入

各市町村
①協議会の招集
②契約書作成
⑥請求書作成
⑧代金の分配

昭和産業
⑤入庫数量を各市町村に報告
⑦飼料用米代金を支払い

各市町村が仲介役となることで、**小規模生産者でも安心して取り組める**ようになるのが**「飼料用米協議会」**。

14

1.数量拡大に向けたインフラ整備

農産物検査体制 の強化

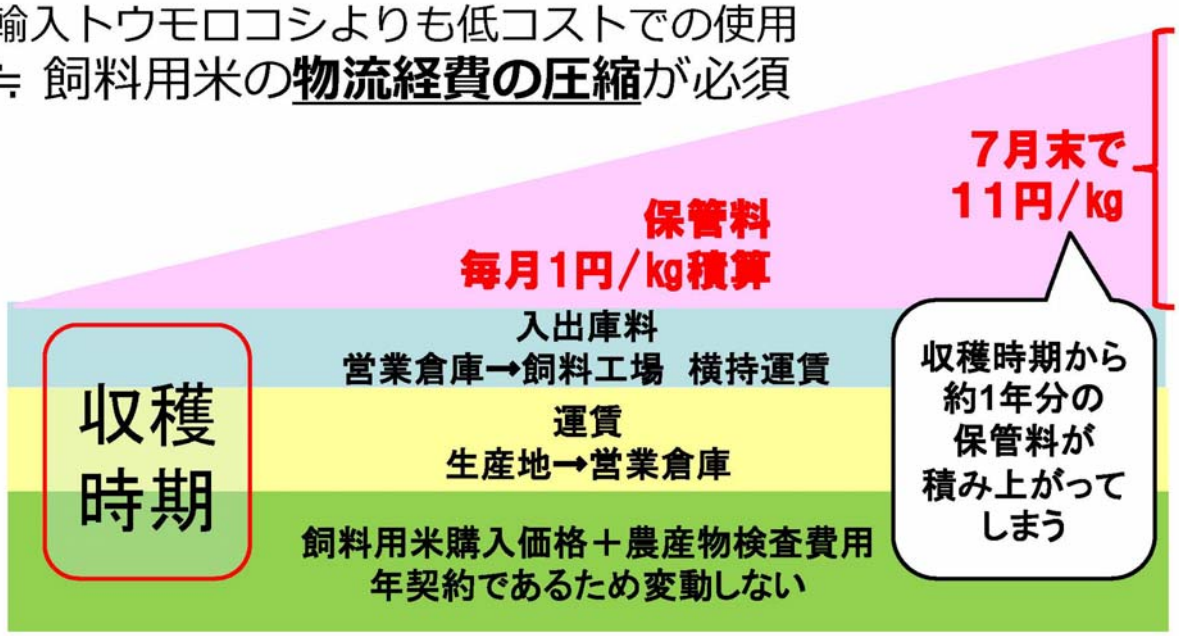
- **検査員の増員**
- **検査方法の効率化**

が実現されないと、かえって数量拡大の障壁となり得る。

15

2.使用までにかかるコスト低減

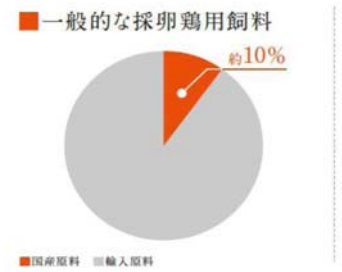
使い手（飼料メーカー）としては、
輸入トウモロコシよりも低コストでの使用
≒ 飼料用米の**物流経費の圧縮**が必須



8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月　4月　5月　6月　7月

16

3.飼料用米を使用している畜産物のさらなる普及・拡大



飼料用米の使用意義（自給率向上、水田保持等）や、
畜産物の特徴を発信していくことが必要。

17

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業

ご清聴ありがとうございました。